

今年度協議会の振り返り・評価及び、来年度協議会の改善・検討が必要なことについて

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>1. 協議会PDCAサイクルにおける、『計画（Plan）、活動（Do）期間』の取り組みがどうであったか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルは必要だが、期間は部会や課題ごとの設定がよい。 ・今のPDCAサイクルの仕組みでよい。 ・課題によってスピード感が違う。 ・スタートの遅れにより、日程調整の難しさがあった。 ・全部会・ワーキングの期間を統一なくてよい。 ・委員改正の年は時間がかかる →引き継ぎの方法・タイミングが課題。 ・協議会のシステムを、新任1年目では咀嚼しきれない。 ・活動期間は、枠の中でのディスカッション（人件費は？） ・前半の2、3か月がもったいなかったかも（人の変更） →人の変更については改めて検討の必要性（メンバー変えず） ・PDCAサイクルは、把握する上でよかった。 ・P（計画）の開始が遅く、それによってD（活動）の開始も遅くなり、検討時間が短く、検討に必要な時間が十分ではなかった。 ・開始は遅かったが、開催回数はそれほど減っていない。 ・委員改正の年のため、開始が遅れたことは仕方なかったことではあるが、進められるワーキング等は進めてもよかったのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルの仕組みはよい（やりやすい）ので現行通りにする。 ・部会・ワーキングごとのPDCAサイクルの設定にしてはどうか（大きくずれても少し問題あり？ 年度を越えてもよい）。 ・終わっていないのに評価したり、終わるとわかっているのに評価している。 ・計画（P）に時間がかかった（準備含め）。 ・相談支援部会は、やることが決まっていスムーズに進んだ。 ・スタートが遅れると、活動期間が遅れる。 ・年度の切り替え問題（特に人）→新人には、まずは説明・引き継ぎが必要。 ・年度末に来年度案を作成している→年度が変わり、新しいメンバーで、前年度案を共有しにくい →計画（P）については、新しいメンバーで、前年度の取り組みを踏まえて作成してはどうか？
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルは継続する。全会議統一での期間設定はせず、期間は各会議で設定する。年度をまたがった活動も可。（これは平成30年度と同じ取り扱い） ・ただし、原則、部会は年度内に振り返り・評価を実施し、運営会議に報告する。 		

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>2. 関係会議（全体会議・運営会議・事務局会議・部会・ワーキング）の開催回数・あり方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容、進み具合で臨機応変に変えてもよい。 ・協議会業務が大変。どういう目的で実施しているか見えなくなってきた。 ・運営会議では、毎回の報告ではなくなったため、コンパクトになってよかった（まとまっていて、わかりやすくなり、考えやすくなった）。 ・事務局の事前打ち合わせが全部の部会・ワーキングで、毎回必要ではない。 ・事務局の事務量が大変だろうな →窮屈なイメージ、もう少し楽に！ ・報告書などまとめることに注力しすぎているのでは！？ ・部会・ワーキング回数が多いことへの負担（事務局） ・会議の1回にかかる時間が長い。1回1時間～1時間半がベターではないか（時間のメリハリが必要）。 ・部会・ワーキングの数が多 →負担も考えながら運営していく必要がある。 ・部会メンバーとワーキングメンバーは別でも良いのではないか（他のさまざまな意見をもらえるというメリット） ・ワーキングは、PDCAに当てはめつつ、短期間で一気にやれるとよい。 ・打合せは大事だが、もっとコンパクトにできるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回数が多すぎて、自分が何をしているのかわからなくなる →優先順位をつけてはどうか？ ・報告の仕方（毎回ではなく、必要なタイミングにしたこと）はよかった（わかりやすい）ので、現行通りにする。 ・自分の報告のないときの運営会議の参加の意味はあるのか？ ・自分の担当会議だけでもボリュームオーバー。 ・運営会議に出席しても、自分が報告するときは自分のことで精一杯で、他の部会・ワーキングの把握がしきれない。 ・事務局会議で部会・ワーキングの共有をするのであれば、運営会議の毎回の出席はいらぬのではないか。 ・運営会議の事務局全員の出席は必要ないのではないか →報告のあるときだけ出席してはどうか。 ・一つの部会・ワーキングの回数は減らせない →事務局は、一人が一つの部会・ワーキングを担当してはどうか？（現事務局は9名→部会・ワーキングも9つ） ・課題の数を決定（上限を決める）し、解決するまで新たな課題には取り組まない。 ・運営会議の報告は、検討状況報告書の内容（概要）ではなく、会議でどのような話し合いがされたか等について報告できると良い。 →そのために、事前に資料を配布し、目を通してきてもらえると良い。
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・委託相談支援事業所の事務局担当者の人数を見直す。 平成30年度 9名 ➡ 平成31年度 8名程度（部会・ワーキングの設置数による） ・委託相談支援事業所の事務局担当者は、原則、1つの部会又はワーキングを担当する。 ・運営会議への事務局担当者の出席に関して、事務局担当者は担当する部会・ワーキングの報告が無いときは欠席してもよい。ただし、全員の出席が必要な議題がある場合は、原則、出席する。 ・運営会議の開催日時は、年間スケジュールで決定しておく。 		

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>3. 協議会の構成員（各会議メンバー）について</p> <p>ex. 現在のメンバーで支障はないか？今後どのような構成メンバーが必要か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部会によって、話を聞きたい人を呼ぶなど、柔軟な対応をするとよい。 ・専門的なアドバイザーの配置が必要。 ・部会・ワーキングに当事者・家族会をメンバーにして、意見を聞いてほしい。 ・精神障害者家族会の思い等を伝えられるように、医療関係者と一緒の協議の場を持つとよい。 ・1事業所としては、いろいろな職員を出したいが・・・ →継続させたい ※～3年くらい ・メンバーの入れ替えは必要な一面もある。重点項目による人員が大事。 ・メンバー（担当者）の熱量の問題あり。温度が低いと成果が出ない。 →運営会議だけでなく部会・ワーキングのメンバーになることも方法。 ・活動内容に応じてメンバーを決めた方がよいのでは。 ・意欲的な事業所に参加してもらいよりも、あえて意欲的でない事業所に参加してもらう方が、課題について考えるというきっかけになってよいのではないかと（全体の底上げになるのではないかと）。 ・メンバー選びに悩んだ。 ・昨年度メンバーからほとんどが変わり、事務局とメンバーにかなり温度差があった（開始時点では）。最終的には、検討している課題について、必要性を感じてもらうことができた。 ・昨年度のメンバーが異動して別部署になった場合に、そのメンバーに依頼をしていたが、元々の所属先（事業所）に依頼した方がよかったのかもしれない。 ・メンバーになってもらったことで、協議会を知ってもらうきっかけになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者をメンバーに入れてもよい。新しい風。あくまでも「検討の場」として。 ・事務局担当者が全員代わってしまった。 ・若い職員の参加→勉強程度で、1～2回参加するのはよいが、企画までではできない。 ・年度でメンバーが変わった際の、温度を維持するために、以前のメンバーを可能な限り、オブザーバーとして呼ぶ（毎回でなくても）。ある程度、同じメンバーで継続することが必要。 ・主要メンバーを固定し、取り組み内容によって、メンバーを追加する枠があってもよいかも。 ・個人では声かけできないので、取り組む内容について適任である人に参加してもらえるように、依頼する事業所に目的をきちんと伝えることが大切。 ・ワーキングの主要メンバーが異動となった際、所属が変わったところで、声かけするのか、しないほうがよいのか悩む。 ・当事者は、公平性を考慮して、慎重に選ぶ必要があり、難しい。その当事者の意見が通り過ぎてしまう懸念もある。当事者の思いが強すぎて、議論が偏りすぎてしまう懸念もある。
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関へ対して協議会への参加を依頼する際、協力してもらいたい職員の経験や知識、会議の中での立ち位置や役割など、求めている人材について伝え、ミスマッチを防ぐ。 ・子ども家庭センターへ、運営会議の委員としての参加を依頼する。運営会議を、子ども分野の取組状況等についても共有できる場とする。 ・精神障害者の家族会が想いを伝えられる場を検討する。想いを伝えられる場面は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を協議する場のあり方の検討時を想定している。 		

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>4. 課題の抽出方法について</p> <p>ex. 今年度の方針として、“課題に注力する年”であったが、どうであったか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて事務局になると、課題は少ない方がよかった。 ・課題が上がってきた時に、部会・ワーキングを立ち上げればよい。 ・部会・ワーキングで、課題のイメージがつきにくかった。 ・計画との連動 部会の必要性について ・課題が終わらない <ul style="list-style-type: none"> →いつまで取り組む？ ・課題はやればやるほど期間も要する。人も変わると温度差もある <ul style="list-style-type: none"> →単年での終了を今一度考える必要性あり。 ・最初に出した課題とワーキングで取り組む内容のズレがある。ワーキングで話し合いができる場合は必要である。 ・課題が上がった際に、すべての課題について運営会議で調整していけるとよい。 ・課題は、各部会の中で整理しておいた上で、運営会議に上げられるとよい。 ・ワーキングで取り組む課題は、具体的なものだとい。 ・ワーキングで予定していた取り組み内容が、検討していく中で変更になったため、事務局としては大変だった。 ・一つ一つ、課題を終わらせていくことは大事。 ・来年度は、支援部会で抽出していってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援部会は、課題をカテゴリーごとに分けてはどうか？ ・相談支援部会は、開催しなくてもよかったのでは？（課題に注力する年としていた理由があるため） <ul style="list-style-type: none"> →「地域を見る目」を養う（教育機能）。 ・障害福祉計画から、課題未着手を探してもよい。 ・課題が上がった際に、「いつまでに」解決するかを決めておく（熱があるうちに取り組んでいくため）。 <ul style="list-style-type: none"> →当事者に返せるように。 ・個別ケースから課題を出す方法ではなく、課題を集める（多くのケースでこういった困ったことが起きている）方法を取り入れてはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> →相談支援部会のやり方。 ・地区担当制になった際に、その地域の課題が見えてくる。（その地域内で解決していくのか、協議会を活用していくのかも課題）
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・部会で抽出し、ワーキングで取り組む課題は、部会の所管する分野として優先的に課題解決が必要と判断したものとする。このため、運営会議においては、原則、取り扱う課題の優先順位を決定しない。 ・協議会として取り扱う課題は、部会ごとに原則1つまでとする。 		

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>5. 部会・ワーキングについて</p> <p>ex. 地域の課題抽出と取り組みを行ううえで不足している分野はないか？ 数は適切か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・止めどきがわからず、ズルズルと実施するよりも、一旦終了する、中止するという選択があってもよい。課題発生→部会立ち上げという自然な流れが大切なのは。 ・今の数は多すぎる。ワーキング立ち上げではなく、部会の中で検討できるものもあるのではないか。 ・部会・ワーキング両方に関わる必要性には疑問がある。ワーキングメンバーにも力のある人がいるので、任せてもよいのでは。 ・児に関する課題があり、部会かワーキング一つでも立ち上げたい。 ・障害児相談と協議会のつながりあまりなく、報告が課題。 ・部会としてどこまでやるか？ ワーキングは何をやるか（部会とワーキングの役割） ・相談支援専門員の横のつながりを持てる役割→部会の機能として。 ・福祉人材不足の実態を踏まえ、人材育成部会があるとよい。 ・当事者をメンバーに入れた部会かワーキングがあるとよい。 ・一旦部会・ワーキングをゼロにして、必要な課題に応じた部会・ワーキングを設置してもよいのではないか。 ・子ども部会を復活させてほしい（放課後等デイサービス事業所も増え、現状を共有する場もない）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども」とのつながりをもっと高めたいため、子ども部会を設置してほしい（子どもの情報が欲しい、学校とのつながり作り。委託相談にも活かせる） →全体の業務量も考えて。 ・部会とワーキングは状況確認程度だった。 ・全体のボリューム抑えたい。 ・ワーキングは、もはや部会。 ・部会等から取り組み（ワーキング）へ流す際の問題がある。部会メンバー＋αのメンバーで取り組みを行ってはどうか。ワーキングになれば、部会は中止し、ワーキングでの取り組みが終了すれば、部会は再開という形にしてはどうか（部会とワーキングがセット）。 ・部会（特に相談支援部会）の活用の仕方。 ・今のところ必要のない部会は終了にしてもいいのでは。 ・部会ではなく、ワーキングのようなかたちに移行してもよい部会もある。 ・ワーキング終了後のモニタリングについては、コンパクトにする。 ・終わりどきが大切。
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度当初の部会とワーキングの体制 <u>4部会・5ワーキング</u> <ul style="list-style-type: none"> 相談体制部会 — ワーキング（計画相談・障害児相談） 相談支援部会 — ワーキング（行動障害研修会） （どこだれ部会） — ワーキング（身障 支援者向け研修会） 〃 — ワーキング（精神 成年後見制度の周知・モニタリング） 〃 — ワーキング（知的 地域移行パンフレットの作成・モニタリング） 就労部会 — 地域づくり部会 — ・部会で課題を抽出した後、その部会はワーキングに移行する。ワーキングが活動している間は、原則、部会は開催せず、休止とする。ただし、必要により部会を開催することができることとする。ワーキングメンバーは改めて選定することとし、必ずしも部会員と同じである必要はない。事務局担当者は引き続きワーキングを担当する。ワーキングでの取組が終了した後は部会を再開し、課題抽出を行う。 ・子ども部会の設置は、必要性を見極めるため、相談支援部会での課題抽出の状況を見て判断する。 ・「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を協議する場合は、今後、あり方を検討する。 		

項目	協議会の振り返り・評価（1月運営会議）	改善・検討が必要なこと（事務局案）
<p>6. 協議会における6つの機能の確認</p> <p>ex. 長岡市の協議会は6つの機能が機能しているか、機能の偏りなどはないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の部会・ワーキングも見学したかったが、できなかった。 ・当事者が入っていない中で、権利擁護の機能を入れることはできたのか？と思うが、よく考えると機能としてはあった（表面に出にくい）。 ・協議会の機能に関する意識を持てることが大切。 ・6つの機能はあったが、評価機能と開発機能がもっとあるとよいのでは。 ・協議会自体が、本人のためであるため、権利擁護機能ももっとあってもよかったです。 ・部会・ワーキングに参加することで、学びがあり、情報・教育機能はあった。（各々、所属に戻った時に、どのように共有しているのか知りたい。） ・運営会議で、報告の仕方等を改善したことは、調整機能。 ・移動入浴ワーキングのモニタリングについては、評価機能であった（モデルケースになった）。 ・メンバーではない部会・ワーキングへの見学 → 評価につながる。 ・親の会等の人が部会・ワーキングへの見学 → 評価につながる。 ・情報発信する（例：研修会の実施後） → 評価につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスは大事（理想）だが、今やっていることで精一杯。無理してやらなくてもいいのでは？ → 振り返り・評価の時間や労力を他のことに使えないか？ ・評価機能 → 委託相談の評価、体制部会等できちんと話合えるとよい。 ・見学できる仕組みは残す。 ・部会・ワーキングのメンバーのみでの振り返りではなく、委員から見学にきてもらうことで、外部評価になってよいのでは。
<p>7. その他（協議会の運営や体制に関すること）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スリム化。負担なく、楽しく協議会に参加してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回×12か月で会議を実施するなら、月に2回×〇か月で、集中してやってはどうか。 ・運営会議委員に、ワーキングに入ってほしい（心強い）。 ・会議実施方法の工夫→ロの字型の限界、グループワーク等の導入で活性化（毎回、グループワークする方法を検討）報告は各グループを回る方法、もう少し楽にやる方法を。 ・事務局が、自分のやりたい部会・ワーキングを選んで参加できると良い。（事務局だけでなく、検討している課題を示して、メンバーに加わりたいたい人に来てもらえるのが理想） ・事務局業務に注力できるながら、いろいろやりたいことはある（ができない）。例：部会通信作ったり・・・
見直し内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の委員は、部会又はワーキングを見学できる。見学する際は、事前に基幹センターへ連絡する。 ・検討状況報告書の様式を見直し、要点を把握しやすい様式にする。 		